

英文の読み方を考えるⅦ

—否定比較表現について—②

*No.67 続編

平井 正朗

(07) As anyone who has ever been in a verbal disagreement can confirm, people tend to give elaborate justifications for their decisions, which we have every reason to believe are *nothing more than* rationalizations after the event. To prove such people wrong, though, is an entirely different matter: who are you to say what my reasons are? (京都大, 10)

(言葉の食い違いを経験したことがある人なら誰でも裏づけることができるのだが、人々には自らの判断に対して入念にそれを正当化する根拠を述べる傾向があり、われわれにはそうした根拠は単なる事後の合理化にすぎないということを知るだけの十分な理由がある。しかし、そのような人々が間違っていると証明することはまったく別問題である。つまり、私の判断の根拠についてとやかく言うお前は何者だと言われるのが落ちである)

連鎖関係詞節(< We have every reason to believe that they are nothing more than rationalizations after the event.)からなる(07)では *nothing more than* ~ 「~以上ということは何もない」→「~だけ、~にすぎない」の意味が産出される。

(08) If we choose our friends because they are good, we are *no nearer* to true friendship *than* if we choose them because they have money. (東京女子大, 03)

(すぐれているという理由で友人を選ぶとすれば、それは金銭的な理由で友人を選ぶ場合と同様、真の友情とはほど遠い)

A is no nearer to X than B では「AはBに比べて決してXに近くない→AはBがXから程遠いのと少しもかわらない→AはBと同じくらいXには程遠い」と日本語化できる。

(09) Consider the relationship between technology and science, which I fear is often misconceived. While many take the former merely for a product of the latter, the reverse is *no less* true. (京都大, 07)
(技術と科学の関係について考えてみなさい。私はこの関係がしばしば誤解されているのではないかと恐れている。前者が後者の産物であるにすぎないと考える人は多いが、逆もまたそれに劣らず真実なのだ)

“クジラ文”の裏命題である A is NO less X than B. の基本原理は、B is X という「真実」を例に出し、A is X の「真実」もそれに劣ることはなく、それと同様「真実」であると言っているのだが、ここでは否定の副詞 no の機能が X に対する A や B の negative な視点を打ち消し、positive な視点から両者に「差」がないことを表出している点に着目したい。(09)では「技術を科学の産物とする考え方」と「科学を技術の産物とする考え方」が対比されており、両者に差異がないという context を味読する必要がある。(< ... the reverse [= 科学が技術の産物] is no less true than that [= 技術が科学の産物].)

なお、A is NOT less X than B の場合、A < B である A is less X than B の否定命題であるから A ≥ B の関係になる。従って、「X について A は B と同レベル、もしくはそれ以下ではない」という原義が生成され、「A は B に勝るとも劣らず X だ」と意識することができる。日本語の「勝る」は

>、「劣らず」は=を表出したものと考えればよい。例えば、He is *not less* talkative *than* you. なら talkative の程度に焦点をあて、He < you の関係である He is less talkative than you. 「彼はあなたよりおしゃべりでない」の否定命題である He \geq you を英語で表したものである。「おしゃべりの程度について、彼はあなたと同レベル、もしくはそれ以下ではない」が原義であり、「彼はあなたに勝るとも劣らずおしゃべりだ」と日本語化することができる。産出頻度の少ない構文ではあるが、no と not の違いにも認識を深めておきたい。

- (10) The lamp's flash lit up a vast stretch of the sea, the boats, the beach, and the dark that followed seemed more than ever dark — so dark that the lamp's light, powerful as it was, seemed *not much stronger than* a match's, and almost as short-lived. (東京大, 05)

(ランプの閃光は、広大に広がる海とボートと浜辺を照らし、後に続く暗闇は、一層暗く思われた—あまりにも暗いので、ランプの光は強かったが、マッチの光とあまり変わらない明るさしかなく、ほとんど同じくらいはかなく思われた)

not much stronger than ~ は、絶対的次元の A is NO less X than B とは connotation が異なるものの、後続する文との結束性(cohesion)から「マッチの光とあまり変わらない明るさしかなく→マッチの光と同じような明るさしかなく」と日本語化したほうが適切であると考えられる。

- (11) This sequence was accomplished by attaching a cable to the car so that no contact was ever made with the animals. In fact, the car is *never less than* 25 feet away from the cows. (立命館大, 05)
(この一連の画像は、車にケーブルをつないで動物とは決して接触しないように撮影された。実際、車は牛から25フィート以上近づくことはない)

no[never] less than + 数詞は、no が「差」が

ない表現であるから数量的には=関係となるが、否定命題である less than ~ を打ち消した主観的で positive な視点が生成されることから多いイメージの「~も」(≒ as much as ~) の意味が生まれる。

- (12) *Nothing* teaches us *better than* literature to see, in ethnic and cultural differences, the richness of the human patrimony, and to prize those differences as a manifestation of humanity's multifaceted creativity. (山形大, 04)

(民族的、文化的差異の中に人間の遺産の豊かさを見出し、そうした違いを人間の多面的な創造性の表示として重んずることを、文学以上に教えてくれるものはない)

否定語句に so[as] ~ as ... や比較級 + than ... が後続する優等比較や同等比較の深層情報が最上級の意味を表すことがある。リーディング・スキルとしては、比較対象となる ... 部分を主体として、~部分や比較級部分を最上級に置換すれば日本語化しやすくなる。(12)は最上級相当表現となる Nothing + V + 比較級 + than + A の構造であるが、「文学が to see ~ をわれわれに最もよく教えてくれる」という深層談話情報が含意されている。

- (13) Some people still persist in a view of the natural world and its inhabitants as having *no other value than* to serve humans as tools, objects, and resources. (大阪大, 10)

(依然として、自然界とそこに生息する生物を、道具や物、そして資源として人間に奉仕する以外、他にどんな価値もないと見なす考え方に固執する人々もいる)

(13)では a view of ~ が同格構造となっており、前置詞句の内部構造で the natural world and its inhabitants が意味上の主語、as ~ がその述語になっている。さらに動名詞 having で言説化される述語内部で「道具や物、そして資源のみが人間に奉仕する」という context が内在している。

- (14) In contrast, the shift in the nature of mail is by far the more profound, and its implications are *nothing less than* revolutionary. (東京大, 08)

(対照的に、メールの本質における変化は二者のうちですっと深い意味のあるものであり、その意味するものは革命に他ならない)

nothing less than ~の原義は、「少しも~より劣るということはありません→まさに~, 他ならぬ~」である。

- (15) Now, for over 200 years, grammarians and English teachers have strongly condemned the split infinitive, declaring it to be “ungrammatical” and “not English”. *None the less*, even the most casual observation of English speech reveals that virtually all speakers of English use this construction spontaneously and frequently: it is a prominent feature of spoken English all over the world. (一橋大, 02)

(現在、200年以上もの間、文法家や英語教師は分離不定詞を強く非難し、「非文法的」とか「非英語」と宣言してきた。にもかかわらず、英語の話し方についての最も何気ない観察からも、事実上すべての英語の話し手はこの構文を自然に、しかもごく頻繁に使用していることが明らかになる。つまり、それは世界中の口語英語の顕著な特徴なのである)

none the less は、*the less* ~を *none* で打ち消した形態であるから「その分だけますます~でなくなることはない」が原義となる。(all) the + 比較級 + 原因・理由~の否定情報打消し表現であるから、前文内容を逆接化し、その因果関係を結論づけるという特徴がある。

- (16) They live from hand to mouth, sometimes sleeping in shelters provided by some government or charitable agency if possible, but *more often than*

not sleeping on sidewalks or in alleys. (武蔵大, 04)

(彼らはその日暮らして、可能な限り、時として政府や慈善団体から提供された隠れ家で眠るが、たいていは歩道や路地で眠っている)

more often than not は「頻度」に焦点をあてた比較表現であり、「肯定(→ often)は否定(→ not)より大である」が原義となるが、結果的には *often* を肯定で強調したものであるから *very often*[*frequently*] の意で訳出すればよい。

- (17) However, all people who are acquainted well with the story, fully or partially, do not always grasp its fictional nature, *still less* comprehend the origins of the mythmaking concerning the first president of the United States and the subtle purpose that one particular story served for a newly-forming country.

(京都大, 02)

(しかし、すべてであれ、部分的であれ、その話をよく知っている人すべてが、その作り話的な本質を必ずしも把握しているわけではなく、ましてや合衆国初代大統領に関する神話が創られた由来や、ある特定の話が新たに創られつつある国家のために果たした微妙な目的をわかっているわけでもない)

否定文に後続する *much less*, もしくは *still less* は前文の否定情報にさらに否定情報を追加する言説である。(17)では *still less* の後に *do all people who are acquainted well with the story* が任意削除されていると考えられる。*much* [*still*] *less* ~ = 「ましてや~でない」という「機械的」な覚え方をしていると日本語の干渉によるケアレスミスを起こしやすい。例えば、「彼は英語を話せない。ましてやフランス語もそうだ」の場合、日本語の肯定文につられて *He can't speak English, much more French.* などと誤訳する事例が見られる。

(龍谷大学付属平安中高等学校・校長補佐)